住宅防音補助施策の早急な改善を求める「要望書」への ご賛同 のお願い

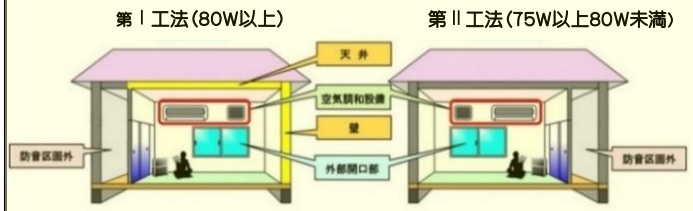
安全保障環境の変化の中、グローバルホーク部隊の移転など、横田基地の重要度はますます高まってきていますが、その一方で、周辺住民への唯一の直接的緩和策である「住宅防音補助施策」は、全国の他の基地周辺と比べ、大きく取り残されている現状にあります。(裏面参照)

このため、当会では、騒音下にある住民の方々で結成された「横田基地周辺の騒音対策を考える会」と連携し、3つの具体的な問題について、その早急な解決・解消を国に促すための要望活動を進めています。

基地の実態に見合った施策が速やかに講じられるよう、「要望書」へのご賛同をお願いいたします。

当会あての「賛同はがき」をご投函ください！

対象化された場合、国の補助金(補助率100%)で次のような工事ができるようになります！！



- ✓ 窓類を、遮音性能の高い防音サッシ等にリニューアル
- ✓ 天井・壁の貼替え(防音仕様への改造(第Ⅰ工法区域))
- ✓ エアコンの設置(対象区域に応じ最大4台又は2台まで)

【施工例】

施工前(一般用サッシ)



施工後(防音用サッシ)



横田住防通信

Vol.2／2026. 夏号



― 横田・入間基地周辺住宅防音工事協力会について ―

当会は、横田基地及び入間基地周辺で施工される住宅防音工事に関し、関係諸官庁への要請、住民への協力等により、地域の住環境の改善を図ることを目的とする団体です。
また、地元住民組織(基地周辺の騒音対策を考える会)や、全国各地に所在する他の基地周辺の防音工事協力会とも連携を図りながら、住民本位の施策の実現を目指した活動を展開しています。



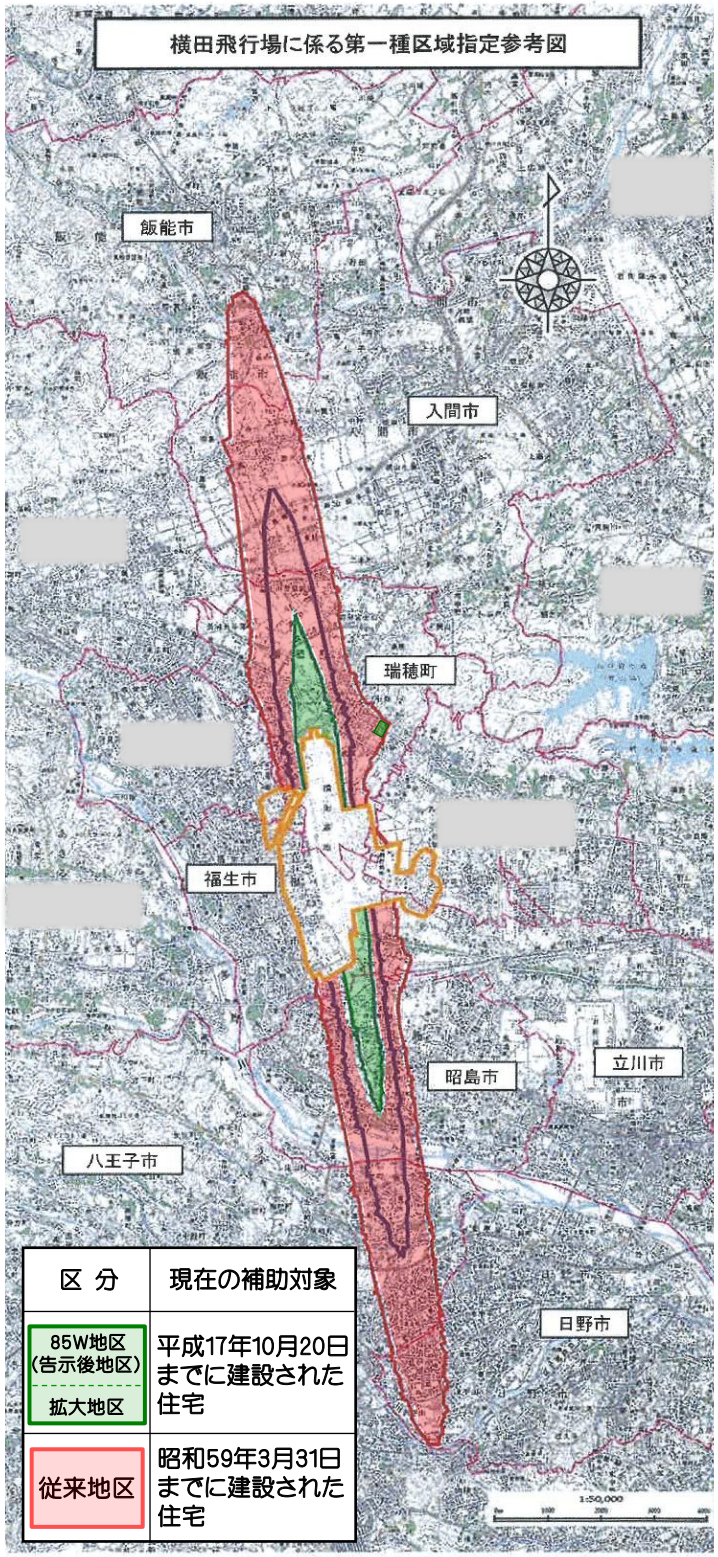
防音工事に関する施策その他 掲載内容についてのお問合せは
協力会事務局　(TEL) 042-519-2564
又は
(e-mail) kyouryokukai@daichou.co.jp　まで

横田住防通信　Vol.2／2026. 夏号
7月15日 発行（不定期刊）

横田・入間基地周辺住宅防音工事協力会

〒196-0003　昭島市松原町 4-11-12

TEL　042(519)2564



横田基地の住宅防音補助施策の現状と今後について

在日米軍及び自衛隊の中枢を担っている横田基地の周辺においては、常駐する輸送機や散発的に飛来する戦闘機などの轟音に加え、CV-22オスプレイの重低音など受忍限度を超える騒音が常態化している一方で、住民への唯一の緩和策である「住宅防音補助施策」が、全国の他の基地周辺と比べ、次のように大きく取り残されています。

① 補助対象区域見直しのための「騒音度調査」への未着手

現在、全国の各基地周辺においては、「指定再告示方式」による対象区域の見直しと、その前提となる“騒音度調査”が順次進められています。（厚木・三沢・八戸→ 令和7年度見直し済、徳島・小松→ 8年度見直し予定、岩国・新田原→調査中、入間・宇都宮・岐阜→ 8年度調査開始）

この「指定再告示方式」による見直しが行われれば、築年を理由に対象外となっている基地周辺の多くの住宅で、国の全額補助による窓サッシ等の更新ができるようになりますが、横田基地については、それに向けた調査すら、未だ着手がなされていません。

② 「逆転現象を伴う告示後住宅」の未解消

横田基地周辺には、平成17年の「追加告示方式」による区域見直しで発生した「逆転現象を伴う告示後住宅」のうち、騒音度80W及び75W区域内にある多くの住宅（左図の赤色の区域内にある、建築日が昭和59年4月1日から平成17年10月20日までの間のもの）が、依然として補助対象から取り残されたままとなっています。

一方、去る3月に見直しがなされた厚木基地については、それに先立ち、同様の「逆転現象を伴う告示後住宅」約 7万5千世帯 の補助対象化が発表され、現在、希望届の受付が進んでいます。

③ 「再復旧」の未対象化

住宅防音工事完了から10年経過後に再補助で行った窓サッシの復旧に関し、国のルールでは、更に10年経過後、2回目（再復旧）の全額補助が受けられることになっていますが、横田基地については、北関東防衛局での「運用」により、この2回目の補助に係る希望届の受付が行われていません。〈→ 右頁に続く〉

このように、横田基地については、周辺における騒音や基地の重要度と、本来あるべき住宅防音補助施策が、著しく乖離しているといわざるを得ない現状にあります。

また、現下の安全保障環境を踏まえた部隊の増強など、横田基地の重要度はますます高まってきており、国には、それに見合うだけのしっかりとした施策を、早急に講じる責務があるといえます。

乖離問題の解決等に関する要請書を国に提出

当会は、3月12日、北関東防衛局を訪問し、横田基地周辺の騒音対策を考える会との連携により一昨年12月以降に周辺住民の方々から寄せられた、騒音度調査の早急な開始を求める要望書への署名数（約2300名）を伝え、当該調査への着手を重ねて要請しました。

また、4月24日には、全国基地周辺住宅防音工事協力会による中央要請の一員として、東京・市谷の防衛本省を訪問し、前掲の乖離問題の解決等を求める要請書を提出しました。



当会では、これらの問題の一刻も早い解決・解消に向け、今後も粘り強く活動を続けていくこととしています。

米空軍グローバルホーク部隊が常駐化

5月28日、国（北関東防衛局）は、米空軍が、これまで一時的に展開してきた 無人偵察機RQ-4Bグローバルホークの運用部隊を、米国領グアムから横田基地に本年夏から移転させる旨を、周辺自治体に説明しました。



これを受け、都や周辺市町の協議会等は、騒音など周辺住民への影響を最小限にとどめることなどを、国に要請しました。